

【柔道競技】

1 日時

令和6年8月4日（日） 審判・監督会議・開会式 9時30分～

2 会場

県総合体育センター武道館（鹿児島市与次郎1-4-20 TEL099-255-0434）

3 参加資格

- (1) 本交歓大会は、競技別交歓大会実施要項〔総則〕に準ずる。
- (2) 選手は、出場の意志が明確で、保護者の承諾を得ていること。
- (3) 選手は、小学4年生以上で、健康かつ柔道の経験が1年以上であること。
- (4) 選手は、スポーツ少年団及び全日本柔道連盟に登録し、引率する監督も両団体に指導者登録していること。
- (5) 選手は、「スポーツ安全保険」に加入していること。

4 チーム編成

- (1) チームは、原則として少年団単位とし、監督1人、選手5人、補欠2人とする。性別は問わない。
- (2) 先鋒及び次鋒は、4・5年生とし、中堅・副将及び大将は5・6年生とする。ただし、下学年の児童が上学年の児童の位置で出場できる。
 - ア チーム成立は3人以上とし、5人に満たないチームは、学年ごとに後詰めとする。
 - イ チームの選手の配列は、低学年から高学年の順とする。
 - ウ 同学年は、体重の軽い者から順に配列する。
 - エ 選手の配列は、試合ごとに変更できない。
 - オ 選手と補欠の入替えは認めるが、イ・ウに基づいて配列する。
 - カ 一度退いた選手は出場できない。

5 試合方法

- (1) 試合はトーナメント方式とする。勝ちチームの決定は、次の順による。
 - ア 勝ち点による。
 - イ 勝ち点が同等のときは、内容による。
 - ウ 内容も同等のときは、代表戦で勝敗を決する。代表戦については、引き分けの試合の中から抽選で1試合を選び、通常の3分間の試合を行う。得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合には旗判定で勝敗を決する。（GSは行わない。）
 - エ 本規則に定められていない事態が生じた場合は、対戦者の中から抽選で1試合を選び、ウの代表戦を行う。
- (2) 第3位決定戦は行わない。

6 審判規定

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定及び国内における少年大会特別規定による。
- (2) 試合時間は3分間とする。
- (3) 勝敗の決定基準
勝敗の決定基準は、「一本」「技あり」「僅差」とし、得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は「引き分け」とする。
- (4) 「逆背負投」「両袖を持って施す投げ技」は禁止とし、かけた場合は「反則負け」とする。（以降の一連の試合には出場できることとする。）

7 組み合わせ

競技専門部で決定する。

8 表彰

団体：第1位から第3位までを表彰する。
個人：優秀選手を表彰する。

9 参加申込み

参加チームは、各市町村スポーツ少年団事務局へ所定の申込書を期限までに提出する。
（※ 申込締切日は、市町村によって異なるので確認すること。）

10 ゼッケン

選手は、所定のゼッケンをつけること。また、監督の服装は、審判員に準ずるものとする。

11 その他

(1) 脳震盪対応について

ア 大会前1か月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診療を受け、出場の許可を得る。

イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。

(2) 皮膚真菌症(トングランス感染症)について

発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療関係において、的確な治療を行うこと。選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場が出来ない場合もある。

(3) 試合による負傷については、試合場での応急処置のみとする。

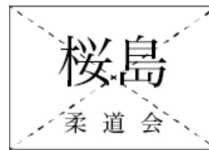
(4) 選手は、所定のゼッケンをしっかり縫い付けること。

ア 布地は白色(晒太綾)で、サイズは、横 30cm~35cm, 縦 25cm~30cm。

イ 上部2/3に苗字, 下部1/3に所属を表記する。書体は楷書で、ゴシック体または明朝体を用いること。

ウ 男子は黒字, 女子は赤字とする。

エ 縫い付けの場合は後襟から 5~10cm 下部とし, 対角線にも強い糸で縫い付けること。



(5) 選手が大会で着用する柔道着については、規格にあった柔道着を着用すること。

(6) 個人で靴を管理するために、各自ビニール袋を準備すること。